燃えろ！川根茶魂

～伝統と挑戦がつむぐ川根茶の未来～

お茶会（松田ゼミ）

研究背景

静岡県川根本町名産の川根茶は国内での煎茶需要の低下と国際的な「抹茶ブーム」の課題に対して、持続可能な茶栽培の戦略が必要となっている

研究目的

①地域の活性化と川根茶の結びつきについて
②将来世代に川根茶を残す戦略について
を明らかにする

研究方法

静岡県川根本町でのフィールドワーク（主に取材）

川根茶について

- 静岡三大銘茶の一つで、全国茶品会受賞歴有り。
- G7広島サミットにて川根茶ボトルティーが提供される
  一方で課題も。。。
- 茶農家の後継者不足
- ペットボトル茶の需要拡大（安価な茶を大量生産）
- 抹茶需要の拡大に伴う煎茶需要の低下

【川根茶を守る3つのアクター】

行政（町役場 S課長）

伝統的な煎茶栽培を継承すべく環境整備や地元農家・企業と連携

企業

ー川根ホールディングスー
地域資源の活用や宿泊、福祉などの他分野で川根本町の活性化を目指す

ー静岡オーガニック抹茶（株）ー
有機茶生産者と茶商が連携し、有機抹茶の製造・国外輸出を展開

茶農家

ーたっちゃん農園ー
伝統を守り抜く煎茶農園

ー益井園ー
海外での農業経験を活かし有機栽培を行う茶農園。和紅茶で賞を受賞。

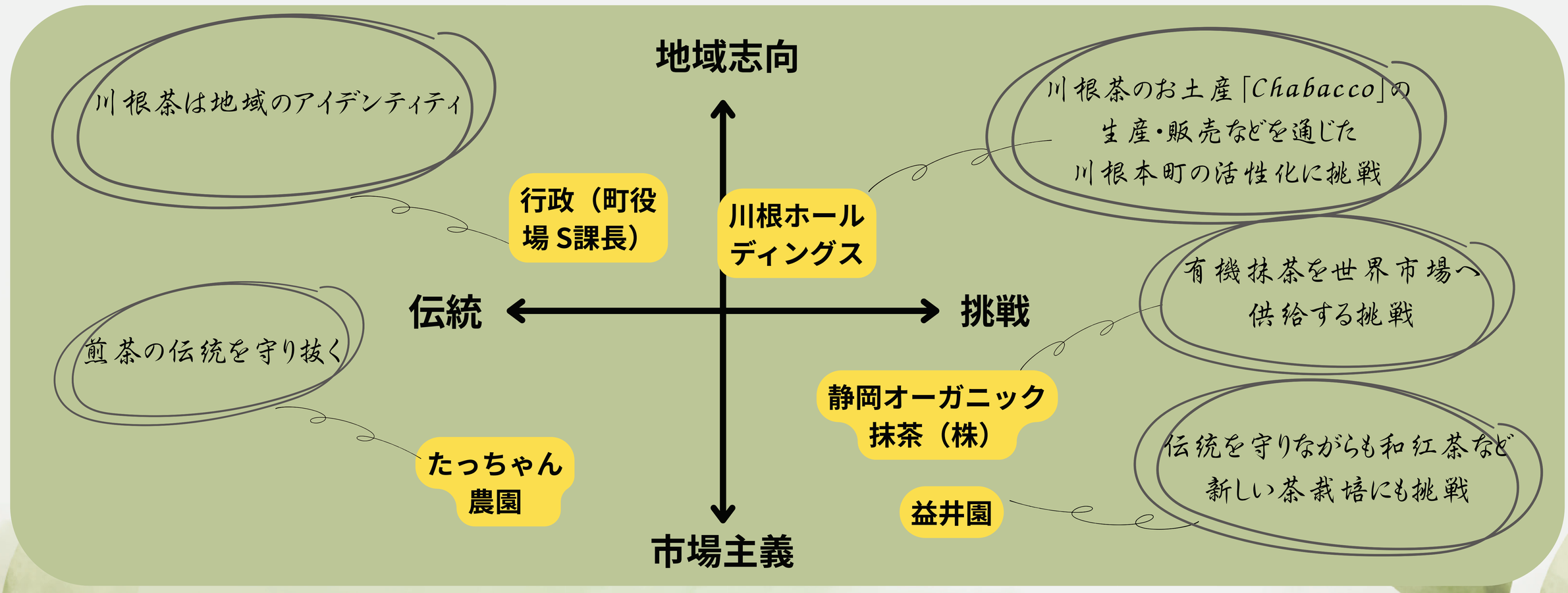
抹茶産業の生産推移

抹茶の原料碾茶4500円/kg

荒煎茶の原荒茶3000円/kg

→抹茶作ったほうが利益出る。
国内外での需要急拡大。

【結果（明らかになったこと）】



考察

川根茶は、伝統的な煎茶を守る「守りの戦略」と、新市場に挑戦する「攻めの戦略」を独立した事業体で推進し、それぞれが経済と文化の両面で相互に支え合う「補完関係」によって、地域全体の持続性を維持している

結論

川根茶は各アクターが持つ「川根茶魂」という誇りと意志のもと、伝統と挑戦の戦略によって茶産業を補完しあう仕組みを確立し、川根本町の地域活性化の一助となっている